

ミュージアムショップ

Museum Shop

シュライヒの動物フィギュア

ブルジェヴァルスキーウマ(モウコノウマ)

Przhevalskii's Horse from Schleich Collection

19世紀の探検家の名を付
けたモンゴルの野生馬。

もはや純粹な野生種
は残っていません。
体高約130cm。家畜
馬の祖先になったと
てもいわれます。貴重
な馬の姿をフィギュ
アでどうぞ！



高 H. 86 mm ¥ 998

書籍 Books

モンゴルの絵
本から草原地
域の考古学の
専門書まで、
遊牧世界の書
籍も充実！



■「遊牧世界の造形」フェア

Featured Items from

"Designs of Domestic Animals and
Nomadic Life"

2010年5月22日～9月5日 May 22 to Sept. 5, 2010.

利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021

Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m.
(入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日・年末年始ほか
一般料金

小・中学生100円

企画展開催時には別料金になること
があります。

毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。

「障害者手帳」・横浜市の「濱ともカード」

等をお持ちの方には、入館料の減免制度
がありますのでお尋ねください。

Hours 9:30 a.m.～5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end/
New Year's recess

Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and
junior high school students



交通アクセス

みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal Subway.

お知らせ Information

9月7日(火)は、展示替えのため休館します。
Closed on Tuesday, September 7 for the change
of exhibition.

News from EurAsia No.13

横浜ユーラシア文化館ニュース第13号

企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2010年7月20日

英文監修 福原庸子 English Edited by Yasuko Fukuwara

デザイン /有オフィスエルク

印刷製作 /ツルミ印刷

禁無断転載

©2010 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

■ 目次 Contents

アートウォッチング p. 2

Art Watching

ファレーラ

Phalera

ギャラリートーク p. 4

Gallery Talk

草原の五畜

Five Types of Livestock in Eurasian Steppe

コラム p. 6

Column

草原の道の現代国家

Modern States along the Steppe Route

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

ミュージアムショップ p. 8

Museum Shop

利用案内 p. 8

Visitor Information



no. 13

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures



牛 Bovine

Art Watching アートウォッチング

ファレーラ Phalera

ファレーラとは、馬具や人間の鎧の胸元につけられる円形の飾板のことです。このファレーラは、馬具の装飾と考えられています。

中央には、牛のような動物がネコ科の猛獣に襲われている文様があります。牛は顔を正面に向け、身体は側面から表わされおり、ネコ科の猛獣はその背に飛び乗るように襲いかかっています。また、周囲にはネコ科の猛獣の顔が正面を向いて並んでいます。動物たちの目、耳、肩、腰、大腿部、蹄には、青色、白色、赤色の石、または練り物が嵌め込まれています。牛の頭の上にも滴形の装飾があります。滴形、扇形、半円形などで動物の身体の各部を区切り、多色の石などを嵌め込むデザインに、高い芸術性が感じられます。裏面は鉄で、馬具に装着するためのループがついていた痕跡がみられます。

草食動物が猛獣に襲われるモティーフは、中央ユーラシアの騎馬遊牧民に好まれたもので、今からおよそ

青銅多色象嵌
南ロシア
紀元前1～紀元後1世紀
径 13.9 cm
中近東文化センター附属博物館

Bronze Inlaid with
Turquoise and Other Materials
South Russia
1st century B.C.-1st century C.E.
Diameter 13.9 cm
The Middle Eastern Culture Center
in Japan

2500～2000年前の、ユーラシアの草原地帯に広く見られます。また、多色の貴石を嵌め込むデザインは、騎馬遊牧民の中でもサルマタイとよばれる人々に多用されました。サルマタイの遺跡が分布するドン川下流域では、金にトルコ石や紅玉髓が嵌め込まれた華やかな装飾品や武器が知られています。

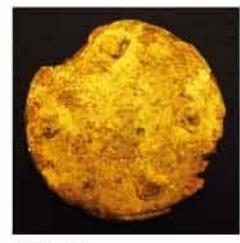
(畠山禎)

This phalera, originally attached to a part of horse harnesses, depicts a bovine attacked by a feline. The face of each animal is shown frontally and its body in profile. They are surrounded



by frontal faces of felines. The reverse made of iron seems to have had four loops as attachments.

The motif of an animal-combat scene was popular in the art of early nomads in Eurasian steppe in the later 1st millennium B.C.E. Ornaments inlaid with colorful stone, glass, or paste were known especially in artifacts of

ネコ科の猛獣の顔
Face of Felines襲いかかるネコ科の猛獣
Feline

裏面 reverse

Sarmatians, who were nomads in South Russia.
(Tei Hatakeyama)

このファレーラは、横浜ユーラシア文化館企画展「遊牧世界の造形—人と暮らす動物たち—」(2010年5月22日～9月5日)に展示されています。

This phalera is on display for the YMEAC special exhibition "Designs of Domestic Animals and Nomadic Life" (May 22nd to Sept. 5th, 2010.)

Gallery Talk ギャラリートーク

草原の五畜

Five Types of Livestock
in Eurasian Steppe

横浜ユーラシア文化館企画展「遊牧世界の造形—人と暮らす動物たち—」は、ユーラシアの草原地帯の主要な5種類の家畜=五畜(馬、牛、駱駝、山羊、羊)をテーマにしたユニークな展覧会です。古代から現代まで、五畜と暮らす生活が生み出した造形の数々約70点を展示。五畜を知り尽くした人々のまなざしを感じていただければ幸いです。

(畠山禎 Tei Hatakeyama)

馬
Horses



馬を乗りこなすことで、人は、速度と機動力を身につけました。
They give people speed and mobility.



牛
Cattle

遊牧という移動生活には、家財一式を運んでくれる力強い動物が必要です。
They offer their labor when nomads move from pasture to pasture.



青銅製牛頭形金具
Bronze Ornament in the shape of Cattle Head

中国北方 Northern China
高 H. 3.8 cm
約2500年前
6th-4th century B.C.E.
天理参考館
Tenri University Sankokan Museum

原寸 Actual size

牛頭形護符
Amulet in the shape of Cattle Head

イラク Iraq
幅 W. 2.2 cm
約5000年前
ca. 3000 B.C.E.
古代オリエント博物館
Ancient Orient Museum



乾燥した地域で荷を担うのは駱駝の役目です。
They work in steppe-desert region.

駱駝
Camels

ジャムジグドルジ画 Painted by Te. Zamjigdorji
モンゴル Mongolia 16.2×18.0 cm
20世紀 20th century C.E.

山羊
Goats



山羊と羊は一緒に飼われます。山羊は先頭を行きたがり、羊は後について歩くことを好みます。山羊さえ先導すれば、羊はおのずとついて行きます。
Goats lead the flock. Sheep follow them.

羊
Sheep



鳥獸文浅鉢
Bowl with Goat and Bird Design
西北イラン
Northwestern Iran
径 D. 19.5 cm
1700~2300年前
3rd century B.C.E.
-3rd century C.E.

土製羊
Clay Sheep
シリア Syria
高 H. 6.8 cm
3500~4000年前
Early 2nd millennium B.C.E.

【企画展】遊牧世界の造形—人と暮らす動物たち—
Special Exhibition "Designs of Domestic Animals and Nomadic Life"

2010年5月22日(土)~9月5日(日) Sat., May 22nd to Sun., Sept. 5th, 2010.
入館料 一般500円、小中学生250円

Admission: ¥500 for Adults, ¥250 for primary and junior high school students.
常設展示および、4階横浜都市発展記念館もご覧いただけます。

【関連夏休み企画】「作ってみよう“人と暮らす動物たち”」(8/7, 8/21)、「ウマ／ラクダ ミュージアムで会う！公園で会う！」(ウマ8/14, ラクダ8/28要申し込み)
詳細はホームページ、またはチラシでどうぞ！ www.eurasia.city.yokohama.jp/

This is a first-of-its-kind display of nomadic handicrafts and utensils, featuring five major domestic animals—horses, cattle, camels, goats, and sheep—of Eurasia.

草原の道の現代国家

Modern States along the Steppe Route

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

かつてユーラシア大陸の草原の道に沿って拡がっていた遊牧世界では、20世紀に定住化が進み、現代の国家が建設された。

1. 民主化するモンゴル

ソ連に次ぐ世界で2番目の社会主義国であったモンゴル国では、1990年から民主化・市場経済化が着実に進んでいる。2008年の世界的な金融不安や主要輸出商品である銅価の暴落で深刻な経済危機に見舞われ、2009年の実質成長率は、前年の8.9%から一気にマイナス1.6%まで落ち込んだ。同年の一人当たりGDP（国内総生産）は1560米ドルである。90年以降現在に至るまで、日本はモンゴルの最大援助供与国であり、数年前に在モンゴル日本大使館が実施した世論調査では、「日本に親しみを感じる」と答えた人が7割を超える、「最も親しくすべき国」として第1位にあげられている。

2. 資源大国 カザフスタン

1991年ソ連の崩壊により独立した中央アジアの諸国は、同じく親日の国々であるが、かつての遊牧世界のカザフスタン、キルギスも、定着農耕民世界のウズベキスタン、タジキスタンも、半農半牧だったトル



メニスタンもおしなべて大統領に権力と富が集中する権威主義体制下にある。

カザフスタンではスターリン時代の1930年代のはじめに、遊牧民の強制定住化と集団化が激しい飢餓をもたらし、カザフ人は人口の4割を失うという悲劇に見まわれ、家畜にも多大の被害を出した。

カザフスタン共和国では、独立前の1990年に就任したナザルバエフ大統領の長期政権が今も続いている。外国からの投資も得てカスピ海地域の石油資源の開発も進む。その一つカシヤガン油田の開発には日本企業も参加している。ウラン、クロムの埋蔵量は世界2位である。おかげでカザフスタンの一人当たりGDPは8502ドル（2008年：IMF）と中央アジア諸国の中ではずば抜けて高い。

3. 注目されるキルギスの政変

キルギス共和国は天山山脈とパミール高原に囲まれ、国土の40%が標高3000mを超える山国で、「東洋のスイス」とよばれる風光明媚さを売り物に観光立国を目指している。産業は農牧業（独立後遊牧の形態がむしろ復活しつつあると言われる）、食品加工業、金採掘と水力発電程度で、一人当たりGDPはカザフスタンの1割強の950ドル（2008年：IMF）に過ぎず、旧ソ連でも最貧困の一つである。独立以来日本はじめ外国の援助と近年は基地貸与料（国内にロシアとアメリカの基地が存在する）やロシア、カザフスタンへの出稼ぎ労働者からの送金（2008年でGDPの20%を占める—ADB）に頼ってきた。

内政面では、ソ連末期の1990年大統領に選出されたアカエフは中央アジア諸国の初代大統領としては唯一当該国の旧共産党の第一書記からの横滑りではなく、独立後は、

民主化と急進的な市場経済化を進めた。過度なナショナリズムを押さえ、言論の自由を保障、反対派の活動をある程度許容したことから欧米や日本で高く評価され、中央アジアの民主化の優等生と言われた。しかしアカエフは1995年頃よりネボティズム（親族、縁故者重用）による権力集中の動きを強めたため、2005年3月に集会の圧力で退陣を余儀なくされた。無血のいわゆる「チューリップ革命」である。

次のバキエフ大統領は期待に反して民主化に逆行し、前政権以上に自身と一族に権力と富を集中させ、反対派を抑圧、言論報道を統制した。一方、2008年10月以降ロシアとカザフスタンの景気後退の影響を受けてキルギス人の出稼ぎ労働者も職を失って送金が減少し庶民は打撃を受けていた。

そこへ政府が2010年初頭に光熱費の値上げを決定したことから、2月末から各地で政府への抗議デモが発生、4月7日首都ビシュケクで大規模なデモ隊は大統領府を占領したが、治安部隊の発砲により、死者86人が出た。しかしふーエフは国外に逃れ、オトゥンバエヴァ元外相を首班とする暫定政府が設立された。ロシアやアメリカも暫定政権への支持と援助を表明した。今回の政変は、民主派や反バキエフの地方有力者などの諸勢力が貧困と失業に苦しむ民衆と連携した、あるいは民衆の怒りを利用したとみるのが妥当であろう。今後より民主的な新憲法草案を国民投票で採択し、10月に国会選挙を行う予定となっているが、6月に南部でキルギス系とウズベク系住民が衝突し、多数の死傷者と万単位の避難民を出す惨事となった。治安の回復と民族間和解の達成など暫定政権にとって緊急の課題は多い。

キルギスの不安定は隣接する中国の新疆ウイグル自治区など周辺地域にも影響を及ぼす。日本を含む国際社会はキルギスの安定を助け、同国が再び「民主化の星」となるよう育ててゆかねばならない。

Modern States were established along the old Steppe Route in Eurasia in the 20th century.

Mongolia, the second oldest socialist republic, has made steady progress toward democracy and market economy since 1990. Japan has been the top donor of assistance to Mongolia.

Central Asian republics of former USSR have been under authoritarian regime of presidents since independence in 1991. In Kazakhstan President Nursultan Nazarbayev has been staying in power since 1990. Kazakhstan's rich natural resources such as petroleum and uranium attracted investment of foreign companies including Japanese firms. Kazakhstan's GDP per capita reached US \$8502 in 2008.

In contrast, mountainous Kyrgyzstan's GDP per capita is only US \$950 in 2008. After independence President Askar Akayev first took a policy for democratization and market economy. Later he turned into nepotism. The so called "Tulip Revolution" forced his resignation in April 2005. Next President Kurmanbek Bakiyev's regime became famous for its worse nepotism and corruption.

In 2010, the government's decision to increase heating and electricity charges triggered people's protests. On April 7th demonstrators attacked President's office in Bishkek. A provisional government led by former foreign minister Roza Otunbayeva, was established. In June a large scale clash between Kyrgyz and Uzbek ethnic groups occurred.

International community should support Kyrgyzstan's stability and democratization.

（元大使 Retired Ambassador）